

第三回 青年中国大会 in 岡山 (倉敷・玉島・水島エリア) 活動報告

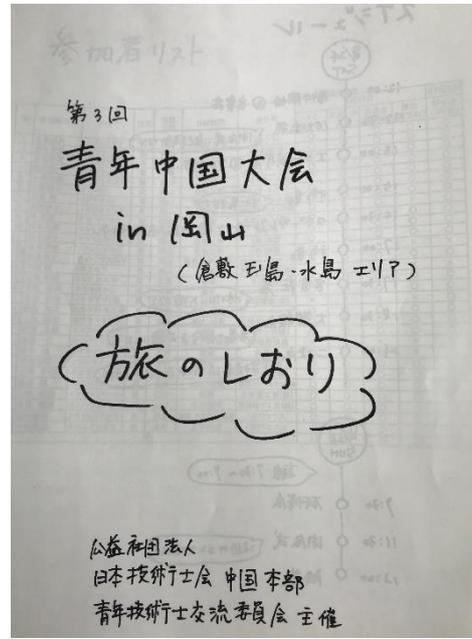
日時：2019年8月24日～25日

主催：公益社団法人 日本技術士会 中国本部 青年技術士交流委員会

参加者：嘉藤剛、長島哲郎、大坂伊作(報告者)

島根県技術士会青年部では毎年1回、他県技術士会(日本技術士会中国本部各県支部)との交流会『青年中国大会』を行っています。この会は、2017年に山口県で日本技術士会全国大会が開催されるにあたり、青年技術士の交流を一層深めておく必要があるとのことから2015年から継続している企画で、各県持ち回りで開催されています。島根県からは嘉藤剛、長島哲郎、大坂伊作の三人が参加しました。

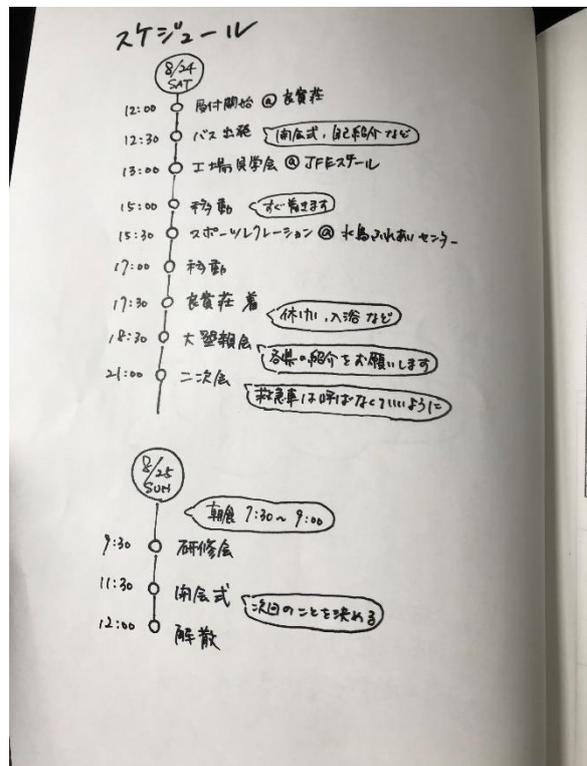
各県の参加者を見ると、岡山県の方は初見の参加者が多く、他の県の参加者はいつものメンバーといった感じ。ホスト県は何かと段取りが多く、新規参加者を募ってあれこれ奮闘されたことが伺われますが、参加する側は参加者が固定化してしまっています。これはどの県も変わらない課題であると思います。



■(1日目)テクニカルツアー

1日目13:00からのテクニカルツアーでは、倉敷市水島にあるJFEスチールの見学でした。岡山県支部の会員にはJFE関係の技術士(機械、建設、金属など)が多くいらっしゃいます。今回の見学会の講師はその方々が務められました。

JFEスチールの敷地は関連会社を含めると5×4km程度あり、敷地内には鉄道や6車線道路などの大規模な交通インフラが通っていました。JFEスチールでは搬入した原料を製鉄→製鋼→铸造→圧延→表面処理という工程を経て出荷されますが、今回見学したのは圧延工程でした。高温のスラブを叩いて延ばして行くわけですが、設備の大きさ、機械の複雑さ、オートメーションそれぞれに技術を感じました。残念ながら敷地内での撮影は一切禁止であったため、写真は一枚もありません。



■(1日目)スポーツレクリエーション、懇親会

JFE スチールの見学会の後は、会場を変えてスポーツレクリエーションを行いました。各県対抗のバドミントン(?)大会でしたが、ラケットに趣向が凝らしてあり、しゃもじやちりとり、玉杓子などをクジで選んで使います。経験者や運動神経の良さではなく、どのラケットをゲットできるかが勝敗を大きく左右します。島根県技術士会は一回戦負けでした。

懇親会はその日の宿でもある良寛荘で行われました。乾杯の後は、各地の地酒を持ち寄って各県の活動紹介を行いました。島根県からは月山の純米酒を持っていきましたが、非常に評判が良く、最も高い評価を受けていたと感じました。



■(2日目)研修会

研修会は良寛荘の会議室で行われました。研修タイトルは『アンガーマネジメント』。ビジネスにおいて“怒り”をコントロール・マネジメントすることは非常に大切であるということで、怒りの原因を自己分析した後、怒りのメカニズムやそのコントロール方法を学びました。私としてはビジネスのみならず家庭でも有効なマネジメント手法であると感じました。

家に帰って早速妻に話をしました。しかし、夏休み中の5歳・3歳・1歳の小児を置いて1泊2日で外出していた私への風当たりは強く、妻の怒りをうまくマネジメントするには至りませんでした。



■感想

他県の技術士と交流するメリットとして、建設関係の部門以外の技術士と交流できる点が挙げられます。基準やマニュアルの枠組みの中での仕事が多い私にとって、基準等が無い世界の話が聞けるのはとても楽しいし、ワクワクします。こういった話を聞くことが普段の問題解決力を高める一助になるものと信じ、今後も交流会には参加していきたいと思えます。

以上